

# 会報

第321号

岩手県小学校長会  
 代表 前川 岳 詩  
 事務局 TEL.019(623)8955  
 盛岡市紺屋町2の9  
 盛岡市勤労福祉会館2F  
 印刷 富士屋印刷所



## この一年を振り返って

岩手県小学校長会 会長 前川 岳 詩

令和六年度も、あとわずかとなりました。働き方改革や処遇改善の議論の加速等、教育界にとって大きな変革期となった一年ですが、各校ではこれまでの学校経営を振り返り、子どもたちの成長した姿に成果や手ごたえを感じていることと思います。岩手県小学校長会の活動におきましても、順調な事業推進により、多くの成果を挙げることができました。会員の校長先生方、役員の皆様方のご尽力と関係各位の皆様方の厚いご支援に深く感謝申し上げます。

岩手県小学校長会のこの一年は、四月十九日の第六十二回定期総会よりスタートしました。会員の総意として、「明日を拓く岩手の絆」を

しっかりと心に刻み、子どもたちと教職員のウェルビーイングの実現に向け、子どもも教職員も一人一人が生き生きと過ごせる魅力ある学校づくりを目指すこと、そのために、校長自身の学びの充実とつながりの強化を図る校長会活動を推進していくことを確かめ合ったところでした。「校長の学び」においては、東北連小青森大会、岩手県小・中学校長研究大会二戸大会、全連小徳島大会が開催されました。各大会に参加された校長先生方からは、研究発表やグループ協議を通じ、他県の情報や先進的な取組から多くの知見を得たことや講演会から学校経営に生かせる新たな視点や刺激を得たこと

等の評価をいただきました。十月の二戸大会は、六年ぶりの全員参加のフルスペック大会となり、前例通りとはならない難しさを抱えた中での開催となりましたが、筒井裕一・二戸地区会長様、遠藤暢睦事務局長様を中心とする二戸地区校長会の皆様の温かな心配りと緻密な運営により、実に多い大会となりました。福岡中の生徒の皆さんの素敵な歌声と力強いエールに迎えられ、各分科会では熱心な協議が行われました。日頃の学校経営の悩みや課題を語り合う場面もあり、参集での研究大会の価値を再確認したところです。次回和賀大会は六十回の節目の大会です。二戸大会の成果を受け継ぎながら、本県校長会にとって最大の学びの場となる本研究大会の一層の充実を全会員と共につくっていくことが必要です。

校長会活動のもう一つの柱「つながり」については、被災地、地区間・県・国等との関係構築を特に大切にしてきたところです。七月には被災地区の赤崎小、唐丹小、高浜小を訪問させていただき、各地区校長会の皆さんとの意見交換を行いました。被災地では要支援児童の発生率が発災当時並みとなつていたり、地域コミュニティの問題等の現状を把握し、その状況を全連小会長会、理事会にて報告しました。全連小にはその状況を理解いただき、支援等の国への要望継続を確認しております。

地区間連携においては、県理事会等の場を通じ、各地区の課題や研修等の取組についての情報交換の時間を大切にしました。また、この場においては、国や県等の情報をいち早く提供すること、逆に課題点等は、県、国へ情報発信するよう努めてきたところでもあります。

一年間を振り返ると、改めて校長会の存在意義の大きさを実感するところです。深刻な教員不足等、教育課題が山積するこのような状況だからこそ、校長自身が使命感をもって学び、一枚岩となつて前に進んでいくことが強く求められます。今後も学びとつながりを大事に、未来を担う岩手子どもたちのために、会員一同力を合わせて歩んでまいります。

## 祝 教育者表彰

岩手県小学校長会  
会長 前川 岳 詩 氏

文部科学省では、昭和三十四年から、国公私立学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）の校園長や教員を対象に、学校教育の振興に特に顕著な功績のあった方を称え、表彰を行っています。

本年度は、十一月二十七日、令和六年度教育者表彰式（会場 文部科学省）が執り行われ、全国から百六十名の方が表彰されました。

本県小学校からは、岩手県小学校長会会長 前川岳詩氏（盛岡市立中野小学校長）が、表彰を受けられました。

表彰式では、武部副大臣から表彰状と記念品が贈呈され、長年にわたり教育の向上発展に御尽力いただいたことに対する心からの感謝の意とともに、今後の一層の御活躍への期待が受賞者に伝えられました。

会員一同、前川会長のこれまでの本県の教育への功績に対しまして敬意を表するとともに、この度の受賞に心からの祝意を表したいと思います。誠にありがとうございます。

# 令和六年度 各部の活動報告

## 総務部

総務部は、本会全般に関わる企画・立案及び庶務に関する活動、東日本大震災対策活動等を行った。

### 一 総務部担当活動

#### ① 理事会・評議員会

○第一回理事会・第一回評議員会（四月十九日）  
・本年度の組織構成等の確認

○第二回理事会（六月十日）  
・第六十二回総会の反省

・全連小、東北連小理事会報告  
・東北連小青森大会、全連小徳島大会について  
・第五十九回岩手県小・中学校長研究大会二戸大会について

○第三回理事会（九月十三日）  
・全連小・東北連小関係報告  
・第五十九回岩手県小中学校長研究大会二戸大会について

○第四回理事会・第二回評議員会（十一月十一日）  
・全連小・東北連小対策・教育課程調査研究報告  
・全連小理事會、同徳島大会報告

・東京電力福島第一原発・被災校等視察報告  
・令和六年度岩手県教育委員会への要望事項について

○第五回理事会・第三回評議員会（二月二十一日）  
・全連小理事会、東北連小理事会報告

・令和六年度岩手県小学校長収入・支出決算（中間）報告  
・令和七年度行事予定

○総務部担当理事・地区事務局長合同会議

○第一回総務部担当理事・地区事務局長合同会議（四月十九日）  
・本年度の組織構成

・全連小徳島大会、東北連小青森大会、第五十九回岩手県小中学校長研究大会二戸大会について

○第二回総務部担当理事・地区事務局長合同会議（一月二十四日）  
・本会会務、中間期決算報告

・令和七年度行事予定  
・令和七年度第六十三回総会開催関係依頼事項の伝達  
・各地区校長会の活動状況についての情報交流

○常任理事会  
・年間十一回開催

・今年度の活動方針と計画に基づく実施計画、活動反省等の協議・各部活動状況の共有

二 東日本大震災対策活動  
① 東日本大震災対策特別委員会の開催

の開催

○第一回（六月十日）

・令和六年度東日本大震災対策特別委員会の計画

○第二回（十一月十一日）

・岩手県立図書館長森本晋也先生による復興・防災に関する講演会

○第三回（二月二十一日）

・令和六年度東日本大震災対策特別委員会の成果と課題

・令和七年度被災地訪問計画

○常任理事による被災三地区視察及び地区校長会等との被災状況等の情報交換

○全連小理事会での被災地の状況説明  
（総務部長 川村 憲弘）

## 行財政部

行財政部は、本県の教育行政及び財政に関わる調査並びに要望に関わる活動を行った。

### 一 行財政関係調査

#### ① 県調査

「校長の給与等」「教職員の病休者と補充状況等」「学校経営における要望を必要とする事項」「教材費の予算」について調査を実施。

#### ② 全連小調査

「教職員定数改善等」「教育環境整備等」「教員養成」「働き方改革・処遇改善等」などについて実施し、全連小へ回答。

二 要望（提言）活動

### ① 要望書の提出

前年度の要望項目について、次年度予算への具現化を図る目的から、県教育委員会を訪問し、要望。（七月二十三日）  
会員からの調査結果をもとに「本県義務教育の充実振興について」をまとめ、県教育委員会を訪問し、提出。（十月二十九日）

② 教育懇談会  
「義務教育」「本県の学力」「人事・服務」の諸課題について、県教育委員会と県小・中学校長会との意見交換。（八月二十七日）

三 全連小対策委員会  
中教審特別部会の審議を踏まえて、「働き方改革や処遇改善」「教員不足の状況と、教員の確保・質の向上の取組」をテーマに協議。（九月二十六日 東京都）

四 東北連小対策委員会  
「対策活動や要望活動の取組状況」「震災復興及び防災に係る人的措置、施設等の整備状況」「働き方改革への取組状況」「教職を目指す若者が減少している状況を踏まえた対応」をテーマに協議。（十月九日 青森県）

五 活動報告書  
令和六年度行財政対策委員会活動報告書を作成。

六 諸会議の開催  
行財政対策委員会（五回）、

行財政担当理事・地区行財政担当者・行財政対策委員会合同会議（二回）を開催。  
（行財政部長 中村 幸子）

## 研修部

研修部は、学校経営の充実に寄与するため、教育課題に対する調査研究や研究大会等に関して次のような活動を行ってきた。

### 一 会議の開催

・地区研修担当者会議二回  
・調査研究特別委員会二回  
・調査研究委員会 十回

### 二 調査研究活動

① 岩手県小学校長会関係  
「校内研修の工夫・改善による教職員の人材育成と学校教育の質の向上」について調査研究活動を行った。「校内研修の現状及び今後の工夫・改善等」と「教職員の人材育成」について

「教職員の人材育成」について昨年度実施した調査結果に分析・考察を加え、県小・中学校長研究大会二戸大会で発表された。

② 全国連合小学校長会関係  
全連小の計画により、抽出校に依頼し、調査を実施した。

### 三 研究大会

① 第五十九回岩手県小・中学校長研究大会二戸大会（十月四日）を二戸市で開催した。全体会での調査研究報告や十の分科会での各地区校長会の研究発表

を行った。

と協議により、研修を深め大きな成果を上げた。

②第六十四回東北連合小学校長研究協議会青森大会（七月四日・五日）は弘前市で開催された。本県百三十五名を含め東北六県から約九百五十名が参加した。弘前大学中路名誉教授による健康教育に係る記念講演や十の分科会での研究発表と協議により、日々の学校経営に資する多くの学びを得ることができた。

③第七十六回全国連合小学校長会研究協議会徳島大会（十月二十四日・二十五日）は徳島市で開催された。本県二十九名を含め全国から約二千二百名が参加した。十三の分科会や記念講演等により、全国の仲間とのつながりを広げ深める機会となった。

（研修部・金野 治）

### 広報・編集部

教育情報の提供並びに会報・会誌の編集、発行に関する活動を行った。

#### 一 「会報」の発行

- ①第三百十九号
  - ・岩手県小学校長会総会
  - ・地区校長会交流（胆江）
  - ・教育課題への対応（一関）
  - ・役員等紹介 他
- ②第三百二十号
  - ・東北連小青森大会

- ・地区校長会交流（気仙）
- ・教育課題への対応（釜石・宮古） 他

#### ③第三百二十一号

- ・県小・中学校長研究大会
- ・全連小徳島大会
- ・各部活動報告
- ・地区交流（久慈） 他

#### 二 「北奥」第六十一号の発行

四十三名の会員による、「随筆・創作、教育実践、小論・提言、特集論文、復興の足跡」の執筆と、表紙絵や挿絵の協力を得て発行した。

#### 三 「小学校時報」の執筆

- 【四月】 向折戸博昭校長（久慈）
- 【八月】 村田浩隆校長（仙北）
- 【十月】 三浦紀久果校長（有芸）
- 【一月】 渡邊 剛校長（不動）
- 【三月】 飯岡竜太郎校長（桜城）

#### 四 全連小HPへの掲載

- ①特色ある学校（新規）
  - 田頭小・小友小・福岡小
- ②写真で見える学校紹介（新規）
  - 赤崎小

#### 五 諸会議の開催

- ・広報・編集専門委員会 五回、担当理事・地区担当者・専門委員合同会議 二回
- （広報編集部長 村田 浩隆）

### 生徒指導部

生徒指導の諸問題にかかる調査の実施及び児童の健全育成の推進を図るために、次の活動を行った。

#### 一 会議の開催

- ①生徒指導担当理事・専門委員・地区生徒指導担当者合同会議（二回）

・第一回 年間活動計画の作成

・第二回 調査結果の考察等

※大型台風接近のため中止

②小・中生徒指導情報交換会

・調査結果の中間発表等

・講話「本県における生徒指導上の諸問題」

※大型台風接近のため中止

③生徒指導専門委員会（年五回）

（専門委員五名を盛岡市小校長会に委嘱）

・調査内容の決定

・調査結果の分析考察・まとめ

・活動の反省と次年度方針協議

#### 二 調査研究活動

①研究主題

「生徒指導の諸問題にかかる調査研究」

②調査方法

・県内全小学校長を対象にアンケート調査を実施

③調査内容

「いじめ」「不登校」「少年非行」「学級経営上の諸問題」「情報化」「児童虐待」

「震災の影響」「新型コロナの影響」

④調査のまとめ

・調査研究内容を報告書にまとめ、年度末に配付。

（生徒指導部長 石亀 健）

## 第五十九回岩手県小・中学校長研究大会 二戸大会 分科会 報告

### 第二分科会(経営組織・運営)

目指す学校づくりと組織・運営の活性化

北上市立更木小学校  
小松 由香里

視点一は、和賀地区校長会より「学校課題を明確にした経営ビジョンの策定の在り方」について実践が発表された。本研究を通して、組織マネジメント（目標の共有、役割の明確化、連携・協働）を大切に、組織が一体となつて学校運営を実践することができたこと、教職員の参画意識が醸成されてきたことなどが成果として挙げられた。

視点二は、遠野地区校長会より「教職員が主体的に参画するための組織運営の在り方」について実践が発表された。本研究の要である「組織運営の活性化につながる六つの観点」を「ろっこのアプローチ」を基に、校長としての取組内容やたらきかけを明確にすることにより、教職員の参画意識に関わる課題に具体的な解決策をもつてアプローチすることができたこと、教職員の参画意識が高まることが見られたことなどが成果

として挙げられた。

実践発表や研究協議から、目標の具現化と課題の解決に取り組むためには、教職員の共通理解と参画意識が大切であり、そのために、校長は、児童、教職員、学校を取り巻く様々な環境についてよく把握すること、自校の状況に応じた組織マネジメントや適切なたらきかけを行うことが重要であると改めて感じた。

### 第二分科会(評価・改善)

教育活動の活性化を図る学校評価と学校運営の改善

一戸町立一戸南小学校  
若松 優子

二戸地区校長会からは「学校課題を解決し、教育の質の向上を図るための学校評価」についての発表があった。二年度の取組として、前年度の学校評価を生かしたまなびフェストを作成するとともに、学校報を活用して教育活動とまなびフェストの関連を示し保護者、地域への周知を図ったことや、日々の意図的な取組を通して理解を深め、学校運営協議会の学校運営への参画を促すことができたこと

とが紹介された。協議では、保護者・地域が関わりながら、まなびフェスタの作成や学校運営協議会委員の選出方法等が話題となった。

一関地区校長会からは「経営改善につながる学校評価」についての発表があった。四年次の取組として、教職員の学校経営参画意識を高める校長の関わりと組織化の構築、教職員評価の工夫と改善、面談の在り方、学校評価を生かした学校運営（支援）協議会の在り方について各校の実践が紹介された。学校評価の項目をまなびフェスタの重点項目に絞ることにより、改善の手立てを考えるプロセスが確立され、職員の学校経営参画意識が高まったこと、学校課題の焦点化と共有のため諸会議や経営反省会のもち方を工夫したこと、学校評価の ICT 活用等、豊富な実践により学びの多い発表であった。

**第三分科会(知性・創造性)**  
知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの推進

奥州市立常盤小学校

城生野 成 則

はじめに、胆江地区三ヶ尻小学校吉田泰治校長より、

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進」学校の特色を生かした取組を通して」について発表があった。胆江地区校長会の専門部会として校長に求められる資質を三つに焦点化し、その視点に基づいた各学校の実践例が発表された。各校の取組は、さまざまであるが、校長の果たすべき役割は俯瞰的かつ、明確かつ確固たる経営理念に基づいたものであることが共通していることを研究協議を通じて確認できた。

次に釜石地区吉里吉里小学校藤井敏朗校長より、「知性や創造性を育むカリキュラム・マネジメントに基づいた学校経営の推進」「地元学」を推進する教育課程の編成における校長の役割と指導性」について発表があった。

東日本大震災・津波発災から十年以上が経過したが、依然として被災地域が抱える課題は山積している。復興教育の推進は、学校のみならず被災地域全体で取り組むことが求められている。地元学は、そういった、学校・地域の要請に付託するものである。研究協議で各校の取組を被害の多寡によらず被災県として地元学、復興教育の改善、充実を図ることの重要性を分科会として確認できたことは有意義であった。

**第四分科会(豊かな人間性)**

豊かな人間関係を育むカリキュラム・マネジメントの推進

盛岡市立洪民小学校

八重樫 深 雪

盛岡地区から「自他を大切にすることを育む学校経営」人権感覚の育成に資する校長の役割」について、二年間の研究実践が発表された。人権教育全体計画・人権教育年間指導計画の策定について、教員研修・情報提供について、各校の課題を解決するための取組についての実践事例が紹介された。協議では、全体計画や年間指導計画の作成の仕方、教職員の人権感覚を高めるための職員研修の方法が話題になった。更に、校長会での研究の進め方も話題になった。

岩手地区から「豊かな人間性を育む教育課程の編成と校長の役割」家庭や地域と連携して児童の道徳性を育む取組を通して」について、四年間の研究実践が報告された。児童の道徳性について、校長の果たすべき役割について、各校の実践事例について紹介された。協議では、家庭や地域と連携して取り組むためには、コーディネーターの役割が重要であることや校長が各活動を参観して、その実践の成果と課題を担当者等と共有

することが大切であることが話題となった。

どちらの研究実践でもカリキュラム・マネジメントを推進するにあたり、現在の教育活動を、視点を変えて見直すことの有効性を再認識する機会となった。

**第五分科(健やかな体)**

健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントの推進

一関市立室根小学校

佐藤 泰 彦

一関地区から「自ら運動に関わっていこうとする子どもを育てる教育活動の推進と校長の役割」家庭・地域との連携も視野に入れながら」についての発表があった。ロードレース大会のあり方を見直し、距離等を児童が選択する場を設定したことや運動の成功体験や達成感が味わえる授業づくり、運動の習慣化を図る実践が報告された。協議では運動が好きではない児童への意欲づけや運動習慣形成までの手立て、学校保健委員会を活用した地域との連携の在り方、職員の意欲を向上させるための手立てなどについて意見が交流された。

宮古地区からは「健康で安全な生活を営む実践力を育てる教育活動の推進」子どもたちの健やかな体を育む健康教

**第六分科会(研究・研修)**

学校の教育力を高める研究・研修

八幡平市立田山小学校

奥 智 志

育を推進するための校長の果たすべき役割」について発表された。具体的な健康課題を①運動習慣②食習慣③生活習慣とし、課題に対するアプローチの視点を A カリキュラム・マネジメント B 人材育成・組織体制づくり C 家庭・地域との連携・啓発と分類し各校の実践が紹介された。協議では体力テストの結果やまなびフェスタの振り返りなどのエビデンスを活用し、それぞれの健康課題について視点を明確にしなが解決していく方法について、参考にしたという意見が多く出された。

岩手地区から「学校の教育力を高める校長としての役割」教職員一人一人の資質向上を目指して」の発表があった。八幡平市の火山防災カリキュラムを活用した防災学習を切り口に市内の小中学校が地域の特性に合わせ、積極的に実践していく中で、教職員の資質向上や学校教育力の向上につながるものであった。協議では、市全体で取り組んでいることへの有意性についての意見や火山の危険性だけで

なく火山の恵みも学ぶことが郷土愛へつながるといふ話題が多く出された。また、防災教育を進めるにあたって、校長としての主任層への働きかけなどの意見交換がなされた。

久慈地区から「教職員の資質向上と学校経営への参画意識を高めるための校長の関わりについて」の発表があった。職員面談において、「勤務状況確認シート」に加え、「資質向上のためのセルフチェックシート」の活用や日常での対話的な関わり、資料等による紙面を活用した職員への助言・啓発についての実践であった。協議では、「資質向上のためのセルフチェックシート」の効果的な生かし方が話された。自分自身を客観的に振り返る上で有効であるということも話題となった。

この分科会を通して、校長の教職員への意図的な関わり方の重要性を改めて感じるとともに、各地区の実践・意見交換により貴重な学びの機会となった。

## 第七分科会(学校安全)

命を守る安全教育・防災教育の推進

紫波町立赤石小学校

平賀英和

視点一については、紫波地区から「自ら命を守る安全教育・防災教育の推進と校長の在り方」教職員の共通理解と家庭・地域との連携を通して「の実践発表を行った。研究のまとめとして校長の役割を、①児童や教職員の意識の向上②指導計画の見直しと実効性の向上③人材支援④情報発信⑤学校運営協議会等地域との連携と示した。

協議では、主に、「自ら判断して行動する力」等について意見交流することができた。また、シナリオのない避難訓練やイレギュラーの付加、管理職不在想定避難訓練等、各校での取組について紹介し合い、交流することができた。

視点二については、盛岡地区から「学校・家庭・地域で協働して子どもの安全を守る防災教育の推進」 「連携」「マネジメント」「地域理解」の視点での検討」の実践発表があった。研究のまとめとして、保護者や地域社会と連携・協働した防災教育での危機意識の共有と協力体制づくりの重要性が示され、実践的な防災教育の好事例が紹介された。

協議では、学校運営協議会の活用による防災教育について話題となり、先行事例の紹介や風水害対応タイムライン

の詳細、地区公民館や子ども園等複数の関係機関と連携した防災学習の事例の紹介があった。

## 第八分科会(危機対応)

様々な危機への対応と未然防止の体制づくり

洋野町立帯島小学校

飛澤 克昭

久慈地区から、「いじめへの適切な対応と体制づくりの工夫」指導力・組織力を高める校長の役割」の実践が報告された。

令和六年度岩手県学校教育指導指針の「学校いじめ対策組織の役割」の三つの役割「未然防止」「早期発見・事案対処」「学校いじめ防止基本方針に基づく各種取組」について、大野地区三校の実践が紹介された。特に、「早期発見・事案対処」の項目の、保健センターを中心とした関係機関との連携による、児童と家庭への対応について、実践が詳しく紹介された。指導力・組織力の向上の重要性を改めて学ぶことができた。

二戸地区から、「学校運営協議会制度(CS)を活用した危機管理体制の見直しについて」家庭・地域・関係機関との連携・協働推進のため「の実践が報告された。危機管理マニュアルの共有

と協議について、九戸地区五校の実践が紹介された。特に、学校運営協議会での協議や、学校生活で実際に起きた危機対応を基にしたマニュアルの見直しなどについて実践が詳しく紹介された。地域を生かした取組の有効性を考える内容であった。

## 第九分科会(自立と社会性)

自立と社会参加を図る教育の推進

宮古市立花輪小学校

馬場 ひとみ

宮古地区校長会からは「学校全体を進める特別支援教育の推進」をテーマに実践が発表された。研修の充実や連携の強化について、取組が紹介された。協議では、オンラインによる研修機会の確保や特別支援教育コーディネーターの強みを生かしたネットワークでの相談体制が参考になったという声が、多数寄せられた。また、経験が少ない教員が特別支援教育を担当しているケースも多く、校内体制や連携の強化を通して、対応力の向上を図っている学校が多いことが明らかになった。

胆江地区からは「未来へ夢

や志を育むキャリア教育の推進」をテーマに実践が発表された。キャリア教育の視点をもちた教育活動の推進やキャリアパスポート等の効果的な活用について、取組が紹介された。協議では、児童のどのような成長を願い、どのように活動や評価を行うのかといった意図的なサイクルを通して、児童に成長や変容の自覚を促していくことが重要であることを、学び合うことができた。また、キャリア教育の今後の可能性について、活発な意見交流がなされた。

発表や協議を通して、児童の成長を保障するためには、校長の確かなビジョンの下、組織として一体的に取り組むことが肝要であることを実感した分科会となった。

## 第十分科会(社会との連携・協働)

学校や地域等との連携・協働と学校段階等間接続・連携の推進

住田町立世田米小学校

鹿糠 博子

気仙地区から、「特色ある学校づくりを推進するための学校運営協議会の在り方と校長の役割」について実践発表を行った。アンケート結果の分析や各校の事例から見えてくる校長の役割として、地域の特性をしっかりと把握し、

具体化する方策を考える必要があること、目指すのは地域との「共創」のマインドで、そのために「人とつながる」だけでなく「組織とつながる」ことで継続した取組が期待できることが確認された。参加者からも学校運営協議会を推進するうえでの悩み等が話され、学校と地域の両者がウィンウィンの関係になることを目指し、学校のニーズと地域の思いを丁寧すり合わせていくことの重要性を確認することができた。

花巻地区からは、「保幼小連携と円滑な接続の推進における校長の役割」についての実践発表があった。「スタートカリキュラムの見直し」の中で次のような提案がされた。これまでは一年担任のみが担当していたが、「組織全体で共有する必要がある」と、例年同じカリキュラムで行っていたが、「子どもの姿に合わせて柔軟に変化させる」こと、椅子に座って学ぶことが当たり前であったが、「遊ぶように夢中で学ぶ」ことなどである。協議でも、各校の小一プロブレムへの悩みや模索している現状が話された。今後も各校での実践・改善についての交流が必要であることを感じた。

### 全連小徳島大会から

第七十六回全国連合小学校長会研究協議会徳島大会が、十月二十四日・二十五日の二日間、徳島県徳島市で開催された。全国から二千二百名の会員が集まり、一日目は開会式、全体会、十三の分科会を開催し、二日目は全体会、講演、閉会式を行った。詳細については、「全連小速報」(十一月二十九日発行)、「小学校時報十二」(十二月十日発行)に掲載されているので、是非ご確認願いたい。

本県からは、常任理事と地区代表の会員、事務局の三十名が県団として参加した。大阪国際空港から明石海峡大橋、淡路島を通過し、渦潮のある大鳴門橋を渡っての徳島入りであった。淡路島では玉葱畑が、徳島に入ると名産鳴門金時の畑やレンコン畑が広がっており、東北地方との気候の違いを感じる事ができた。

主会場の「アステイとくしま」は、コンサート会場のよいうな広いフロアに大型モニターが配置された会場であった。開会式では、遠藤彰良徳島市長が歓迎の挨拶の中で、自ら「阿波おどり」を披露し会場からは大きな拍手が送ら

れた。また、矢野和彦文部科学省文部科学審議官の講話では、日本型学校教育の「知・徳・体を一体として育むよさ」を受け継ぎ、発展させるために、働き方改革やGIGAスクール構想の推進が必要であることについて説明があった。

この大会で特にも印象的であったのは、二日目の講演「神山まるごと高専の挑戦」であった。松坂孝紀事務局長から、「人口五千人の神山町に私立の学費無償の高専を創る」という壮大な事業をやり遂げるまでの思いが語られた。「起業家精神」「人と異なる選択」など、これからの社会において「社会に役立つ学び」とは如何にあるべきか、示唆に富んだ内容であり、これからの教育を推進するためのエネルギーを頂く時間となった。是非、会員の皆様にも「神山まるごと高専」のホームページをご覧くださいと思う。(広報・編集部長 村田 浩隆)



## 令和 7 年度定期総会、全国・東北大会のお知らせ

### 令和 7 年度 第63回岩手県小学校長会定期総会

- 1 期 日 令和 7 年 4 月 18 日 (金) 午後
- 2 開 場 盛岡市都南文化会館 (キャラホール)
- 3 主な内容 感謝状贈呈 行政説明 被災地状況報告 議事 新役員紹介  
第 1 回理事会・評議員会合同会議 各部毎担当理事・地区担当者・専門委員合同会議

### 第65回 東北連合小学校長会研究協議会秋田大会

- 1 期 日 令和 7 年 7 月 3 日 (木) ~ 4 日 (金)
- 2 場 所 あきた芸術劇場「ミルハス」 他
- 3 大会主題 「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」
- 4 副 主 題 「ふるさとを愛し 志をもって 自ら新しい社会を切り拓く子どもを育てる学校経営の推進」

### 第77回 全国連合小学校長会研究協議会福岡大会

- 1 期 日 令和 7 年 10 月 16 日 (木) ~ 17 日 (金)
- 2 場 所 福岡サンパレス 他
- 3 大会主題 「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」
- 4 副 主 題 「志をもち 多様な他者と協働しながら次代を創る人財を育む学校経営の推進」

# 地区校長会研究交流

## 「創意に満ちた活力ある

## 学校経営の充実」を目指して

### 久慈地区小中学校長会

#### 一 組織と活動・役割

久慈地区は、久慈市内小学校十三校、中学校八校と洋野町内小学校七校、中学校三校、野田村内小学校一校、中学校一校、普代村内小学校一校、中学校一校を合わせた三十五校で構成されており、久慈地区小中学校長会はその三十五校の校長によって組織されています。

本校長会は、学校長としての職能の向上を図り、久慈地区教育の振興に寄与することを目的として活動しております。主な活動は、久慈地区四市町村の首長の講話を頂いたり、特徴的な活動を学んだりする管内教育事情視察研修、隔年で行っている管外視察研修や八班に分かれて行う実践研究等を行い、校長としての資質と指導力の向上を図るとともに、会員相互の連携を深

め、学校経営の充実に努めています。

#### 二 活動の方針

(一) 地域社会に根ざし創意に満ちた、活力ある学校経営の充実に努める。

(二) 専門職としての見識・力量を高め、使命感に満ち、指導力のある教職員の育成に努める。

(三) 会の円滑な運営と会員相互の緊密な協力関係を深める。

(四) 教育諸条件の整備・改善と各教科等の研究団体の育成・支援に努める。

#### 三 令和六年度主な活動内容

(一) 管内教育事情視察研修

##### 【講話】

普代村長 榎屋伸夫氏  
「持続可能な村づくりについて」

##### 【講義】

(株)アースカラー社長

高浜大介氏

「わくわくする農山漁村を創る」

(二) 管外教育事情視察研修

※本研修は、隔年で行っており、令和五年度の研修を紹介いたします。

【研修先】秋田県秋田市

・秋田市立高清水小学校  
授業参観・学校説明

・秋田市立土崎中学校  
授業参観・学校説明

・秋田市教育委員会  
講義「地域とともにある学校づくり」

秋田県立生涯学習センター 皆川雅仁氏

(三) 各種研究大会への参加

・第七十六回全国連合小学校長会研究協議会徳島大会  
二名参加

・第六十四回東北連合小学校長会研究協議会青森大会  
十一名参加

・第七十五回全日本中学校長会研究協議会兼第七十四回東北地区中学校長会研究協議会岩手大会  
十三名参加

・第五十九回岩手県小中学校長研究大会二戸大会  
三十四名参加

(四) 実践研究  
県の実践研究主題に沿っ

て、小学校五班、中学校三班に分かれて研究しています。

①各研究班の研究主題

A班（小学校五校）

「教職員の資質能力の向上と学校経営への参画意識を高めるための校長の関わりについて」

I班（小学校五校）

「豊かな心を育成する教育課程の創造と校長が果たす役割」

ウ班（小学校五校）

「復興教育と防災教育をリンクさせたカリキュラム・マネジメントの推進と校長の関わりについて」

E班（小学校四校）

「主体的に学び続ける教職員の育成 『ひろの学』の取組を通して」

オ班（小学校三校）

「いじめへの適切な対応と体制作りの工夫」

カ班（中学校五校）

「地域とともにある学校経営の在り方について」

キ班（中学校五校）

「社会的・職業的自立に向けた資質・能力を育むキャリア教育の推進」

ク班（中学校三校）  
「生徒主体による開かれた学校づくり 『校則改

定』の取組における校長の役割」

②第六十一回久慈地区小中学校長会研究大会

【期日】

令和七年一月二十二日(水)

【場所】

久慈グランドホテル

【内容】

・全体発表

・小学校二班、

中学校一班の発表

・分科会

Aグループ(小学校十三校)

Bグループ(小学校九校)

Cグループ(中学校十三校)

③研究記録集の発行

二月中旬発行

#### 四 結び

久慈地区小中学校長会は、歴代の諸先輩校長先生方が、たゆまぬ努力を積み重ね、築き上げられてきた伝統を受け継ぎ、三十五人の校長同士が手を携えて、子どもたちの成長の一助となるよう、日々研究・研修を積み重ねております。これからも活力ある学校経営の推進に努め、子どもたち、保護者、地域の皆様のために歩み続けていきたいと思

います。

(洋野町立宿戸小学校 中島 和孝)

## 事務局日誌抄

(令和 6 年 10 月以降)

- 10月 4日 第59回岩手県小中学校長研究大会二戸大会（二戸市民文化会館・福岡中学校）  
 8日 全連小健全育成委員会（東京・全連小事務局）村田部長出席  
 9日 東北連小第1回対策委員会（青森市・アスパム）中村部長出席  
 東北連小第2回教育課程委員会（青森市・アスパム）金野部長出席  
 17日 第75回全日中研究協議会岩手大会（トーサイクラシックホール岩手）前川会長出席  
 22日 第4回行財政対策委員会（盛岡市勤労福祉会館）  
 23日 全連小第248回理事会（徳島・ホテルクレメント徳島）前川会長、川村部長出席  
 24～25日 第76回全国連合小学校長会研究協議会徳島大会（徳島・アスティとくしま他）参加者29名  
 29日 岩手県教育委員会へ要望書提出  
 全連小教育環境整備等委員会（東京・全連小事務局）石亀部長出席
- 11月 1日 第7回常任理事会（校長会事務局）  
 11日 第4回理事会・第2回評議員会合同会議・第2回東日本大震災対策特別委員会（ふれあいランド岩手）  
 12日 全連小健全育成委員会（東京・全連小事務局）村田部長出席  
 22日 第3回広報・編集委員会（盛岡市勤労福祉会館）  
 全連小教育環境整備等委員会（東京・全連小事務局）石亀部長出席  
 26日 全連小健全育成委員会（東京・全日中会館）村田部長出席
- 12月 5日 第5回行財政対策委員会（盛岡市勤労福祉会館）  
 10日 第8回調査研究委員会（盛岡市勤労福祉会館）  
 12日 第4回広報・編集委員会（盛岡市勤労福祉会館）  
 13日 第8回常任理事会（校長会事務局）
- 1月 20日 第2回広報・編集部担当理事・地区担当者・専門委員合同会議（盛岡市勤労福祉会館）  
 第4回生徒指導委員会（盛岡市勤労福祉会館）  
 24日 第2回総務部担当理事・地区事務局長合同会議（盛岡市勤労福祉会館）  
 27日 第2回研修部担当理事・地区研修担当者 第2回調査研究特別委員会・第9回調査研究委員会  
 合同会議（盛岡市勤労福祉会館）
- 2月 3日 第9回常任理事会（校長会事務局）  
 7日 東北連小第3回理事会・研修会（青森市・青森市男女共同参画プラザ）前川会長・飯岡副会長出席  
 10日 第2回行財政部担当理事・地区行財政担当者・対策委員合同会議（盛岡市勤労福祉会館）  
 第10回調査研究委員会（盛岡市勤労福祉会館）  
 第5回広報・編集委員会（盛岡市勤労福祉会館）  
 第5回生徒指導委員会（盛岡市勤労福祉会館）
- 13～14日 全連小第249回理事会（東京・KKRホテル東京他）前川会長、川村部長出席  
 21日 第5回理事会・第3回評議員会合同会議・第3回東日本大震災対策特別委員会（盛岡市勤労福祉会館）  
 岩手県小・中学校長研究大会引継ぎ会（盛岡市勤労福祉会館）
- 3月 4日 岩手県小学校長会会計監査（盛岡市勤労福祉会館）  
 第10回常任理事会（校長会事務局）  
 5日 東北連合小学校長会会計監査（青森市・リンクモア平安閣市民ホール）金野部長出席  
 21日 第11回常任理事会（校長会事務局）

## 編集後記

隔年開催の県小・中学校長研究大会をコロナ以前と同様の規模で開催いたしました。「校長にとつての最大の学びの場」となるようご尽力いただきました二戸地区校長会の皆様には、会員全員で感謝したいと思います。

県小中学校副校長会研究大会分科会での助言の機会を頂き、木村泰子氏（大阪市立大空小学校初代校長）の講演から引用して次のことを伝えました。

「地域住民は地域の学校の『土』です。校長や教職員は学校を通りすぎる『風』の存在です。地域住民が『土』を耕し続ける限り、地域の学校はしっかりと根を張ります。『風』の仕事は『土』を進化させ復元力を高めることです。」

二戸大会では「土」を大切にすることが数多く発表されています。掲載の分科会報告が、各校の来年度計画の参考となることを願っております。一年間、編集へのご協力有難うございました。

（広報・編集部 村田 浩隆）